

ちうりやあてふたれをき地味せしなり
 弘化元年三月廿五日辰時信州水内郡遠近地震
 ゆり場と云々たる所より先づ吉光寺と初ノ堂と塔
 かへん未社寺院具外人家破壊并川に洪水里に人
 る此後七多く丹波津川田代屋代倉坂木由此道瑞隆
 街道節大石等及申りけり大地もさくる如く
 一々重現つたもの事ハ世の知る所なり此度の大地震
 小境内にも及す新田後下大門町西植等丁岩石梯小
 路西門下東門左右普く申りける確動斜をじし
 こゝも中堂ハ破却なり而も不満なる事ハ
 恒我のなき偏にさるる應援の人と諸人から
 がれ只以て原かりん相又秋身跡の方ハ平村
 本一渡村吉田名荒所宿田子村吉村平山村三村利年
 宿大古房宿小古房宿柏多宿玉張宿庄庭宿国川宿小
 此平信法、越後の土地にて関川の宿有するまゝ破
 中山二宿初同公高田辺也右の場合又上州の方ハ諸
 追分宿松越宿怪井宿雅井の宿罷下不信上野の宿也
 南ハ移ろふ宿青柳宿金田宿刈谷宿島田宿和布迫
 是又砂外宸初一人家ホ多く焼失してその強部
 た方今に近辺の大川鴨がぬぬ火の妻とやらあり
 くれは残の男女老たと助けいけりなを抱てゆけ
 ぶ多所ともふくむべき事私多化と云もお海のと
 扱又板代真田縁の地下下りて喰所並葉邊飛込所淺
 馬所田町袋下松所杉町元の内辺土地にけり多敷
 而七十軒程申りつたり人宿凡そ人が居る所
 とわやけ地十二三里のものける又平伊勢守條
 の宿も容易に破れまじ佐来も成重なる也と云
 ほ飯と云友と云り紀しと云りおぢの字もあり
 西みせや有り依てある人の故地なり是れ
 泰平北 中国五智事之丈に付ても予者他信
 のものばかり例もある事申しをかりにみよそ
 咄治友と云りやなりれかかくあらうこれ地ニ位
 果穀にかゝる 予者恩の形有事なり
 是又ちくま川むすりて井都ふくハミマ太シマ
 日と月門堀長守條や海を湧抜け道地にれおせ
 一中野け田村と云り換す山田も幾あるが我道ふらつと
 川向の方が多豊に候御傳下飯に思慮くぬるし
 浅所通瑞隆寺と云り也訪人以たりる人とし
 記一々減少奉年の式しと報上書也



0018x2218

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a dark ink on aged, slightly discolored paper. The script is dense and fills most of the page, with some lines starting with larger, possibly decorative or initial letters. The handwriting is consistent throughout, suggesting a single scribe.

